

# 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 筒井 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。  
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

#### 質問紙調査の結果分析

男子は、「運動やスポーツが好き」「運動やスポーツは大切である」について肯定的な回答が多かった。また、「体育の授業では、たくさん運動しますか」については、全児童が「たくさん運動する」と答えていた。これは、「積極的に運動やスポーツに関わっていくことができる」という成果である。

女子は、「運動やスポーツが好き」について「好き」と答える肯定的な回答が圧倒的に多かったが、「やや嫌い」「嫌い」の回答が若干増えていた。「やや嫌い」「嫌い」と答えた児童の多くは「汗をかくことが嫌い」と答えていた。また、「運動やスポーツは大切である」「体育の授業は楽しい」については肯定的な回答が多かった。

上記のような結果から、本年度「めあての提示・ふり返りの確保」や「全校活用のための場の設定(〇〇週間)」を通して、児童が1時間1時間の学習に見通しをもちながら取り組めたことが効果的であったと考えられる。また、その中で一人でも多くの児童が運動やスポーツに対して積極的に活動できるように引き続き段階的な手立てを行っていくことが必要だと考えられる。

### 4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

男女とも「運動やスポーツが好き」「運動やスポーツは大切である」については、肯定的な回答が多かった。引き続き「めあての提示・ふり返りの確保」や「全校活用のための場の設定(〇〇週間)」などの本年度と同様な取り組みを行いながら、「わかる・できる」体育科の学習活動を実践していく。

- ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

新体カテストの結果をキャリアパスポートに毎年記録していくことで、保護者と一緒に体力の伸びを確認できるようにすることで、児童の運動習慣等に関する意欲を啓発していく。